

学校名： 鎌倉市立御成中学校

担当：2学年英語

氏名：赤穂 沙織

1. 今回の研修における目的やねらい

「自分の原点に戻りたい」と思い、この研修に応募しました。私は教員を始めるとき、専門の英語だけではなく、開発教育等を実践して子どもの視野を広げたいと思っていました。しかし、日々の業務に追われ、全くと言っていいほど自分が子どもに伝えたいことを実践することができていませんでした。そこで今回の研修を目にしてすぐに「絶対に参加する」と決めました。

また、教員を目指したのは、海外に行ったことがきっかけでした。学生時代にニュージーランドに長期滞在をしていました。生き生きと、楽しそうに過ごしている現地の子どものを見て、日本の子どもたちに「もっとこういう世界があるよ」と伝えたいと感じました。そこで、今回の研修に参加することで、また新たな視点を得て、教育活動につなげたい、と考えていました。

2. 目的やねらいがどのくらい達成されたか

自分の想いを再確認することができました。JICA 職員の足立さんがおっしゃっていたことがまさにこの研修で学んだことだと思います。「日本の人は道路をまっすぐ走るけれども、タンザニアの人はまっすぐ走らない。生活に関しても同じことが言える。日本では少し道を外れただけで非難されたり、排除されてしまう。もっと柔軟になってもいいのではないか。」というようなことです。これは私が今までもやもやと持っていた感情で、教員を目指したきっかけでもあるけれども言葉では何と言ってよいかわからなかった、そのことをまさに言うていただきました。

特に日本の学校教育は子どもたちにまっすぐな道をひいて、その道をきちんとまっすぐと走ることを教えているような気がします。そこで道はずれてしまう子は、本当は別の道もあるのに、道はずれたとしてもあとで戻ればよいのに、そういう術はあまり学校では教えられないから「自分はだめだ」と思ってしまう。それはとても残念だし、もったいないことだと思います。

まだまだ勉強不足で自分は世の中の事を全然知らないんだと今回の研修で痛感しましたが、これからたくさん経験を積んで、子どもたちにいろんな道を示すことができるような教師になりたいと、改めて思いました。

3. タンザニアから学んだこと

教育の根本ってこうものなのだと気づかされました。教室があって、先生がいて生徒がいて、黒板とノートがあって…タンザニアの学校はとてもシンプルで、物足りない気も少ししましたが、でもそれが本来の学校の形なのかもしれない、と思いました。日本では授業以外の業務があまりにも多すぎて、つい授業がおろそかになったりしていましたが、行事よりも部活動よりも委員会活動よりも、校務分掌の業務よりも、まずは授業を大事にしなければ、と改めて考えさせられました。もちろん授業以外で教育することもとても重要だし、タンザニアの場合はそれが無さ過ぎて、勉強が苦手な子はどこで活躍するのかな、と少し疑問にも思いましたが、でも本質はやはり授業だと思いました。日本とタンザニアと、を足して割ったら丁度いいのかもかもしれない、とも思いました。

職員室も机といすのみ。今私が頼っているパソコンや印刷機はありませんでした。様々な機械に頼って授業している私が、ここで教えるとしたらどうやって教えるか、と考えました。

4. 今回の研修経験をどのように教育活動に活用しようと思っているか

タンザニアのことについて伝えるに終わるのではなく、最終的には生徒たちの日常生活に落としどころをつけ、自分自身の生活を見つめ直すきっかけにしたいと思っています。

開発教育のようなことをやると、「自分は日本に生まれてよかった」「アフリカはかわいそう」という意見になりがちです。この意識をどう変えていけるか、自分の中でも一番の課題で、色々試行錯誤していきたいと思います。

5. 今回の研修に参加してよかったことや、よりよくするための提案

個人の旅行ではいけないような場所、出会うことのないような人たちに巡り合うことができ、本当に貴重な体験をさせてもらったと思います。よりよくするため、あえて提案するとすれば、もう少し早く訪問先の学校の情報が分かると、準備がしやすく、一方的な交流にならないのではないかと思います。今回はタンザニアの子どもにやってもらうアンケートやワークが交流の中心だったため、もっと文化的な紹介が出来る子供もさらに喜んだかなと思います。メモ用紙に日本語での名前を書いてあげただけで大喜びしていました。調査や研究がメインで行くわけではないので、もっと現地の子に（「もの」という訳ではなく）与えられるものが考えられたらさらに良かったかなと反省しています。

6. 海外研修での役割（各担当や日直）を振り返っての感想・提案など

ホテル係でしたが、他の係に比べて仕事が軽く、申し訳なかったかなと思います。会計さんや団長さんの負担が大きかったのではと思います。毎日の全体でのふりかえりは、正直疲れてしんどいと感じる時もありましたが、自分の考えを整理し、他の方の意見を聞いて一日を振り返ることができ、良かったと思います。提案としては、書記係、または日直が日誌（しおりを余分1つつくって日誌代わりにするなど）を書くなど、写真としての記録だけでなく、紙にも一貫して記録ができるとさらに良いかと思いました。毎日の振り返りの時に皆メモをしながら聞いていて、もったいないと感じました。記録係を写真と書記に分ける等でも良いかと思いますが、そうしておいた方が、あとで自分たちの記憶を辿れるし、来年の参加者の方に見せることもできるかと思いました。

7. その他、研修全般を通じての感想・意見など

JICA 職員の方々、訪問を受け入れて下さった学校、農家さん、企業さんの様々な計らいのおかげでとても充実した研修を送ることができました。とても感謝しています。

8. 今後の本研修参加者へのアドバイスなど

5. のところでも書きましたが、子どもたちとの交流を、双方向で有意義なものを考えていけると良いと思います。子どもたちから教材に使うような材料を「もらう」だけにならないような形をぜひとっていただきたいと思います。

9. 各訪問先等の所感

日 時	テーマ	所 感
8月10日(月)	日本からタンザニアまでの移動中および現地到着	飛行機の時間が思ったより長く、すごく疲れてしまった。空港に到着して、ホテルに向かったが、バスからみる街なかにはビルが立ち並んでいて、「アフリカに来た」という実感がわかなかった。

8月10日(月)	JICA タンザニア事務所表敬 研修ブリーフィング	安全についてのブリーフィングを受け、集団で行動していても油断してはいけない、と思った。つい、個人旅行では常に緊張していても、団体となると気が緩んでしまっている自分に気づき、気を付けなければ。と感じた。
8月10日(月)	JICA 所員との懇親会	タンザニアで活躍されている日本人がこんなにいるのだな、と驚いた。JICA 職員の方以外にも、元協力隊隊員でいまは企業の出張で来ているという方のお話も聞けて、とても興味深かった。
8月10日(月)	本日のふりかえり	ダルエスサラームは都会とは聞いていたが、イメージ(あちこちにサバンナ)と違う街並みに少しがっかりしたが、このようなことも生徒に伝えられたらと思う。飛行機に酔い、体調があまり良くなかったため、研修に集中するためにも「健康第一」を心がけようと思う。
8月11日(火)	JICA タンザニア事務所 研修ブリーフィング	農業、教育、電気など、様々なセクターのお話が聞けてとても勉強になった。自分の専門外の事も、もっと勉強しなければと感じた。また、セクターの話以外にも、職員の方のお話を聞き、様々な背景をお持ちになり今こうやって世界を舞台にして活躍されているということ、子どもたちに伝えたいと思った。 また、様々な話を聞く中で、元々協力隊に興味があったが、ただ「協力隊に行きたい」ではなく、「自分に何ができるか」を考える必要がある、と感じた。
8月11日(火)	本日のふりかえり	朝にエレベータの中で女性と「Habari za asbuhi?」(おはよう、元気ですか?)「nzuri!」(元気です!)という会話ができただけでうれしかった。後から考えれば本当に初歩の初歩の会話だったが、「通じる喜び」とはこの事か、と感じた。生徒に英語を教える際にも大事にしたいところだと思った。また、現地スタッフのナシブさんが、お昼を食べ終わって外に出たときに「ジュワカーリー」と、暑い日差しを手で遮りながら、「ジュワが太陽という意味で、ジュワカーリーで暑いという意味だよ」と教えてくれ、言語の習得とは本来こういうことだな、と感じた。
8月12日(水)	キリマンジャロへ移動	国内線のeチケットの名前が全く違ったメンバーが何人かおり、それでも飛行機に普通に乘れて、日本では不可能なことだと思った。後で日本大使の方がおっしゃっていた、「物事を突き詰めない幸せ」とはこのようなところにも言えるな、と思っ

		た。
8月12日(水)	キリング中等学校 赤木隊員活動視察	<p>中高チームで考えた、アンケートが上手くいか心配だったが、生徒たちがしっかりと理解してくれ、スムーズに進行できた。ただ、「もの」については考えさせられた。ソーラン節でつかう音源のスピーカーをもっていると「これいくら?」「貸して?」と生徒がよってきた。また、日本の生徒に書かせた地域の紹介カードも、クラス用に渡したものを、「私がほしい」といっていたり…事前に「もの」には注意するように言われていたが、改めて考えさせられた。</p> <p>「幸せとは」の問いに「教育」と答えた生徒が多かったことについて、「先生からそういうように言われている」「周りの子に流されている」「親から教育が重要だと言われ育てられている」など、色々な理由が挙げられたが、どちらにしても、それらをひっくるめてのアンケート結果ということで、それはそれでよかったかなと思う。</p>
8月12日(水)	モシへ移動	モシについて、やっと「アフリカに来たんだな」という実感がわいた。景色や空気がダルエスサラームと違った。
8月12日(水)	隊員との懇談会	色々な経験をされている方だった。国のスポーツである柔道について自分は全然知らないと思った。
8月12日(水)	本日のふりかえり	マーケットを見て回った時に、「写真をとりたい、授業で使えそう」と思う場面が、「カメラを向けるべきでなさそうな所」であることが多く、考えさせられた。今まで個人の旅行では好き放題に写真を撮っていたが、それとは少し違うような感じがした。今回の研修のはじめに、「紙に、写真に、心に記す」という目標を自分に課したが、必ずしも形に残るものに記す必要はないのかもしれないと思った。
8月13日(木)	カラंगा小学校 植松隊員活動視察	とにかく小学生という存在がかわいかった。みんな人懐こいし、ボディータッチも多くて、全身でコミュニケーションをとっているように感じた。小学生チームの皆さんが用意してくれたワークも、周りに流されているような子もいたが、よく話を聞いてやってくれていた。
8月13日(木)	警察学校 江波戸隊員活動視察	とても厳格な雰囲気だった。3000人が入学してきてあのぎゅうぎゅうづめの部屋で生活すると聞いて、驚いた。とにかく想像以上に敷地が広く、一つの街の様だった。管理職レベルであると考えら

		れる方に女性もいて、とても意外だったし、現地スタッフのナシブさんも、女性の友達で警察をやっている友達がいると言っていて、女性が活躍しているのだ、と感心した。日本の警察学校について、全然知識がなく、メンバーに教えてもらってとても興味深かった。警察犬についても、日本の警察犬はどんなに人が来ても吠えないようにと訓練されているらしいが、今回の警察学校では、狂ったように吠えていて、考え方の違いだな、と思った。
8月13日(木)	本日のふりかえり	メンバーが、「先生になりたい」という子供が多いのは、先生しか職業を知らないのではないかという意見をいっていて、確かに！と思った。そういえば前にカンボジアに行った時も、子どもたちはみんな先生になりたいと言っていて、すごく人気な職業なのだと思っていたが、そういうことだったのだと気づいた。ちょうどいま自分の持っている学年で職場体験に向けて学習しているが、職業の名前を挙げさせると黒板にびっしり書き込んでいて、職業に触れる機会がこんなにも違うものかと思った。
8月14日(木)	タンライスプロジェクト 視察	様々な品種をばらばらのタイミングで育て、視察に来た人たちに見てもらえるように、という形は年間通して気温差が激しくないタンザニアならではだと思った。専門家の方の話で、タンザニアの人にコメの作り方について伝える時にスワヒリ語に「メンテナンス」という言葉がなく、それを理解してもらうのが難しいと言っていて、文化と言語の繋がり面白いと感じた。
8月14日(木)	専門家との懇親会	専門家の方の奥さんのお話を聞くことができ、また貴重だった。安全面の不安や帰国後の子どもの進路など、色々な悩みを抱えつつ、前向きに過ごされていてすごいな、と思った。
8月14日(木)	本日のふりかえり	タンライスに向かう前に州行政長との会話で、自分の語学、知識の甘さを痛感した。日本の少子化の問題や労働力の問題で、自分の言いたいことを上手く言えず、すごく悔しい気持ちになった。そういう時に足立さんが上手い言い回しで意見をされていて、さすがだと感じた。自分ももっと勉強しなければと思った。
8月15日(木)	タンライスプロジェクト 農村視察	訪問したのは比較的裕福なお宅で、農業は、軍隊を引退した後に始めたという、元兵士さんの家だった。息子たちが自分たちのために建ててくれて

		<p>いるという新しいおうちをととても誇らしげに見せてくれた。自分が昔作ったという土で作られたおうちの隣に、電気も通ったきれいなおうちが建設されていて、とても幸せそうだった。</p> <p>あと印象に残ったのが、ジェンダーでの役割分担。男性は炊事場に立たないといっていて、昔の日本と同じだと思った。昼ご飯を作るのを少し手伝ったが、すごく時間がかかるし、煙で目が痛くなるしでとても重労働だと感じた。女性は子どもの時から学校から帰ると家事の手伝いといった感じで、でもその割には女性も社会で活躍していて、不思議だと思った。皆とても温かく迎えてくれて、もっと長く過ごしたかったと思った。</p>
8月15日(木)	市内視察	似たようなお店がマーケットにずらっと並んでいて、経営はどのようにになっているのかと疑問に思った。
8月15日(木)	本日のふりかえり	今まで学校視察で「外」の生活を見てきたが、今日の農村訪問で現地の方の「内」の生活を見ることができてとてもうれしかった。料理の仕方やライフスタイルを間近に見ることができて、旅の醍醐味の一番はやはりこういう所にあるなど改めて感じた。包丁ひとつとっても違いがあって、とても興味深い一日だった。
8月16日(金)	ダルエスサラームへ移動	朝にととてもきれいにキリマンジャロが見え、感動した。国内線は揺れて怖かったが、少しだけザンジバル島へ降り立つことができうれしかった。
8月16日(日)	専門家との懇親会	とても高級感のある海に見えるホテルでの食事だったので、緊張した。電力関係という、自分が全然知識のない分野の方々とのお話で、勉強になった。専門家の方一人一人がご自分の仕事を誇らしく語ってらして、とても素敵だった。
8月16日(日)	本日のふりかえり	それぞれの農村での経験を共有した。比較的どの家庭も裕福だったようだ。ケニアの小学校に留学させたり、息子が銀行に勤めていたり…
8月17日(月)	タンザニア電力供給公社(TANESCO)プロジェクトサイト視察	色々な意味でこの研修の中で一番勉強になった視察だった。正直前日は、「電力はよく分からないからあまり楽しみでないな…」と思っていたが、説明を聞いて、実際に変電所を見て回る中で「そういうことか!」とわかる場面があり、とてもうれ

		<p>しかった。と同時に、自分も授業を行うときに、苦手な子が少しでも「分かった！」と思える場面を作っていきたいと強く思った。実際に見て感じて、分かるということはこんなにもうれしい事なのかと実感した一日だった。</p>
8月17日(月)	市内視察・教材購入	<p>ティンガティンガという伝統的なアートが想像以上に素晴らしく、一日中見ていたいと思った。特にその場でプレートに名前を入れてくれるサービスは、本当に職人技で、素晴らしかった。もっとこのアートの歴史や背景を知りたいと感じた。</p>
8月17日(月)	本日の振り返り	<p>メンバーの中で、タンザニアでこんなにも働く日本人がいることへの驚きと尊敬の感想が多くあったが、私も同じことを感じた。それぞれの方が家族がいたり、自分の生活がある中で、タンザニアにもっと明るい暮らしを、という気持ちで働いている姿に感激したし、子どもたちにも伝えたいと思った。</p>
8月18日(火)	ムランディジ小学校 三隅隊員活動視察	<p>特別支援級を見れたことがとても印象的だった。タンザニアで特別支援級がある学校はごく少数で、裕福な家庭の子は私立の学校に入れられるそうだが、障害を持つ多くの子が家にいて教育を受けられずにいるということを聞いた。先生がそのような子を探しだし、家まで教えに行く場合もあるそうだ。</p> <p>聴覚障害を持つ子のクラスも別にあり、3歳～14歳までの子が同じクラスで全部で30人ほどいて、先生一人でどのように授業展開しているのかが気になった。そのようなクラスがあるだけ恵まれているのだと思うが、字が読めない子もいて、もともと持っているものなのか、教育の受け方なのか…と疑問が残った。また、卒業後の進路はどのようなになっているのかが気になった。手話はタンザニアならではの、「ウガリ」を表す手話がウガリをこねるようなしぐさで、とても興味深かった。</p>
8月18日(火)	市内視察・教材購入	<p>スーパーマーケットに行ったが、西洋と変わらない、あまり特徴のない形式だった。植民地時代のなごりなのだろうか。</p>
8月18日(火)	JICA 所員との懇親会	<p>はじめにお会いしたときとまた違った角度でお話をするのができ、良かった。帰国後も何かしらの形でつながれたら、と思った。</p>
8月18日(火)	本日のふりかえり	<p>漢字一文字で今の気持ちを表す、ということをしそれぞれメンバーが行ったが、私は「幸」という字を選んだ。ムランディジ小学校から市内に戻る時、</p>

		<p>ウトウトしながらバスに揺られ、外の景色を見ているときに、「本当にこの研修に参加できて、タンザニアに来て良かった」と思った。やはり知らない地に来て、新しい人たちと出会い、新しい文化に触れることが私の一番の幸せだと実感した。この研修を支えて下さった職員の皆さん、教員メンバーの皆さん、そして私の所属校の皆さんへの感謝の気持ちを忘れずに、初心を忘れずに、この先も頑張っていきたいと改めて思った。</p>
8月19日(水)	JICA タンザニア事務所 報告会および記者発表会	<p>まだ10日程度しかたっていないというのが不思議な感覚だった。団長はじめ、皆さんがそれぞれ良い役割を果たしていて、とてもよいチームだったと思った。現地スタッフのナシブさん、インターン生のレオくんも色々なことを教えてくれて、別れが惜しかった。</p>
8月19日(水)	在タンザニア日本大使館 表敬訪問	<p>大使館に入ること自体初めてだったため、緊張した。大使のかたが様々な視点から話をして下さり、とてもためになった。教育と職業のミスマッチ、大学を出てもなかなか仕事が見つからず、専門性も欠けているという点は、日本も似ていると思った。大使館表敬も含め、今回の研修で、教育分野だけでなく、農業、工業など、自分の専門外のことももっと勉強しなければと痛感した。</p>
8月19日(水) -20日(木)	タンザニアから日本までの 移動中および日本到着	<p>帰りに「風に立つライオン」を見た。ケニアで働いた医師の話で、色々と考えさせられた。日本に着いてもまだなんとなく実感がわかず、次の日もまだ気持ちが興奮したままだった。タンザニアでの経験を、どう生かしていくか、これからが本番ということのを忘れずに二学期を迎えようと思う。</p>